

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円はもみ合い一巡後に一段と上値を追う展開か

[3月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		2月27日～3月3日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	136.38	137.09(2)	135.26(1)	136.43	-0.05
ユーロ・ドル	1.0550	1.0691(1)	1.0533(27)	1.0619	+0.0071

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,927.47	+473.99	日本10年債利回り	0.505	+0.001
ダウ平均株価	33,003.57	+186.65	米10年債利回り	4.056	+0.112

=====

<来週の主要経済統計等>

- 6日 スイス2月消費者物価指数
ユーロ圏1月小売売上高指数
カナダ2月Ivey購買部協会指数
米1月製造業受注
- 7日 豪1月貿易収支
中国2月貿易収支
豪中銀(RBA)政策金利
スイス2月雇用統計
独1月製造業受注指数
パウエルFRB議長議会証言(米上院銀行委員会)
- 8日 日本1月経常収支、日本1月貿易収支
日本1月景気動向指数速報値
独1月小売売上高指数、独1月鉱工業生産指数
ユーロ圏第4四半期GDP確報値
米2月ADP雇用統計
米1月貿易収支
カナダ1月貿易収支
カナダ銀行(BOC)政策金利
パウエルFRB議長議会証言(下院金融委員会)
- 9日 日本第4四半期GDP2次速報
中国2月消費者物価指数、中国2月生産者物価指数
米新規失業保険申請件数
バイデン米大統領予算教書提出(2024会計年度)
- 10日 日本1月勤労者世帯家計調査
日銀金融政策決定会合(9~19日)・金融政策発表
黒田日銀総裁記者会見
英1月鉱工業生産指数、英1月製造業生産指数、英1月貿易収支
独2月消費者物価指数確報値
カナダ2月雇用統計
米2月雇用統計
米2月財政収支

【前回のレビュー】良好な米経済指標が続くようなら、FRBによる金融引き締め長期化観測により、ドルは堅調な動きを続けるとみられる。こうした中、米経済指標の結果に左右されつつ、ドル円は底堅い動きが継続するとした。

【米雇用統計に注目】

1月31日～2月1日の米連邦公開市場委員会（FOMC）の後、2月3日の米1月雇用統計、14日の米1月消費者物価指数、15日の米1月小売売上高、16日の米1月生産者物価指数が予想から上振れしたことで、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融引き締め長期化への思惑が広がった。

2月24日には1月の個人消費支出（PCE）デフレーター、PCEコアデフレーターがいずれも市場予想から上振れして、ドル買いの動きに傾き、ドル円は136円台半ばまで上昇した。ドル円はその後も堅調な動きを見せており、2月28日には136.90円まで上昇して、137円に迫った。

1月のPCEデフレーターは前年比+5.4%となり、事前予想の+4.9%や前回の+5.0%を上回った。コアデフレーターの前年比は+4.7%となり、事前予想の+4.3%や前回の+4.4%を上回った。また、前回はいずれも上方修正された。前回から伸びが鈍化せず加速したこともあり、市場ではFRBによる金融引き締め長期化が警戒されている。2日に米10年債利回りは4.055%近辺まで上昇している。

CME FEDウオッチでは、3月21～22日のFOMCでの0.25%の利上げ確率は69%前後で推移する一方で、0.50%の利上げ確率が31%前後で推移している。7月にかけて利上げがあと4回行われて、ターミナルレート（利上げの最終到達点）は5.50%前後に達するという見方も広がりつつあり、今後の米経済指標の動向が注目される。

3月6日の週は、8日に米2月ADP雇用統計、10日に日銀金融政策決定会合の金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米2月雇用統計の発表がある。日銀金融政策決定会合は黒田総裁にとって最後の会合となるため、おそらく金融政策に変更はないとみられる。

米雇用統計は前回（2月3日発表の1月分）は非農業部門雇用者数は前月比+51.7万人と事前予想の+19.0万人や前回の+26.0万人（改定値）を大きく上回る驚異的な結果となった。これが大幅なドル高につながった。今回も前回のように強い米雇用情勢が示されるとドル買いの動きに傾きそうだ。一方で、逆に市場予想を大きく下回る結果となれば、ドルの上昇基調が一服することにつながりそうだ。ただ、インフレ率は高止まりしており、ドルの大幅な下げにはつながらないだろう。

ドル円は高値圏で足踏みしているものの、底堅い動きを続けており、この流れが継続することとなりそうだ。FRBによる金融引き締め長期化への思惑もあり、押したところでは買いに支えられて、底固く推移するとみられ、もみ合い一巡後に一段と上値を追う展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、134.00～138.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、6日に米1月製造業受注、8日に日本1月経常収支、日本1月貿易収支、日本1月景気動向指数速報値、米2月ADP雇用統計、米1月貿易収支、9日に日本第4四半期GDP2次速報、米新規失業保険申請件数、10日に日本1月勤労者世帯家計調査、日銀金融政策決定会合（9～19日）・金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米2月雇用統計などがある。

【ユーロドルはもみ合いで推移か】

ユーロドルは2月27日に1.0530台まで下落した後、上昇に転じている。1日には1月の独消費者物価指数速報値が市場予想を上回ったことで、インフレ抑制のために欧州中央銀行（ECB）による利上げが長期化するとの見方が広がった。ユーロドルは1.0690台まで一時上昇した。ただ、その後は米長期金利の上昇もあり、ドルの強さを受けて、上値を抑えられた。

ユーロ圏ではインフレ率の高止まりにより、ECBが利上げを継続するとの見方が広がっている。これがユーロの下支え要因となるものの、FRBの利上げ継続姿勢もあり、ドルも堅調な推移となりそうだ。ユーロ、ドルともにいずれも堅調な動きを見せることで、ユーロドルはもみ合いで推移しやすいとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0450～1.0800ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、6日にスイス2月消費者物価指数、ユーロ

圏1月小売売上高、カナダ2月I V E Y購買部協会指数、7日に豪1月貿易収支、中国2月貿易収支、豪中銀（R B A）政策金利、スイス2月雇用統計、独1月製造業受注指数、8日に独1月小売売上高指数、独1月鉱工業生産指数、ユーロ圏第4四半期G D P確報値、カナダ銀行（B O C）政策金利、9日に中国2月消費者物価指数、中国2月生産者物価指数、10日に英1月鉱工業生産指数、英1月製造業生産指数、英1月貿易収支、独2月消費者物価指数確報値、カナダ2月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。